

「神のいつくしみと厳しさ」

ローマ11：11-24

堀田修一 24・4・14

I 肉によるイスラエル（国）が皆イスラエル（神が選ばれた救いの民）ではない（9：6）と語ったパウロは、恵みの選びによる「残された者（救われる者）」（11：5）と「頑なになってつまずく者」がいつの時代もいた事、そして現にいることを示しました。この神の深いご計画を教えてください。

1. 「彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません」：11。イスラエル人が倒れること自体が目的ではない。それによる神の御目的、神のみこころの御計画を述べます。→「かえて、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。」：11。
2. こうして「彼ら（イスラエル）の背きが世界の富（人々の救い）となり、彼らの失敗（主を信じない事）が異邦人の富（救い）となるのなら、彼ら（選ばれた人々、残りの者たち）がみな救われる（原語：彼らが満ちること。イスラエルがみな自動的に救われるのではなく、神に選ばれた人々が自分の罪を認め主を信じて救われる）ことは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょうか」：12。
3. パウロは、このような神の御計画の中に位置づけて、おそらくローマ教会の大半を占める異邦人の信徒たちに語り掛けます。「私は異邦人への使徒（使徒9：15，ローマ1：5）ですから、自分の務めを重く受けとめています」：13。その確信はいささかも揺るぎません。しかし他方で、この異邦人への働きを通して「何とかして自分の同胞（イスラエル人）にねたみを起こさせて、彼らのうち何人かでも救いたいのです」：14。これもパウロの正直な熱い願いです（9：3，10：1）。そして、イスラエルの姿を、まるで主イエスの十字架と復活をなぞるようにして「もし彼らの捨てられることが世界の和解となるなら、彼らが受け入れられることは、死者の中からのいのちでなく何でしょうか」：15 とさえ語ります。神の畑で栽培されてきたオリーブにたとえられるイスラエルと、本来そこにはいなかったにもかかわらず、今や救いの恵みにあずかっている「野生の」異邦人（世界中のキリスト者）とを対比している。
4. この比喩の大切な点は「あなたが根（族長アブラハムがいただいた信仰義認による恵みの契約）を支えているのではなく、根（信仰義認の恵みの契約）があなた（主を信じるキリスト者）を支えている」という秩序です。「枝（イスラエル）が折られたのは、私（異邦人）が接ぎ木されるためだった」と言うでしょう：19。実際、「彼ら（イスラエル）は不信仰によって折られましたが、あなた（異邦人で主を信じ救われた人）は信仰によって立っています」：20。

II パウロは、このようなイスラエルと異邦人キリスト者との関係を二つの比喩で語ります。

1. ①「麦の初穂」と「こねた粉」の関係、②オリーブの「根」と「枝」の関係です。どちらも前者が「聖なるもの」すなわち神に聖別されたものであるなら、後者もそうなるという内容です。

特にオリーブのたとえが続けられます。証し。「枝（イスラエル）の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがた（異邦人）がその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分（救いの恵み）をともに受けているのなら、あなたはその枝（不信仰のイスラエル）に対して誇ってはいけません」：17, 18。

2. パウロが異邦人キリスト者、私たちに伝えたいことは、「彼ら（イスラエル）は不信仰によって折られましたが、あなたがたは信仰によって立っています」：20。その主を信じる信仰も神の選びの恵みで与えられた賜物です→「恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物（霊的なプレゼント）です。行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです」（エペソ2：8, 9）。ですから「思い上がることなく、むしろ恐れなさい（神を畏れ敬いなさい）」：20ということです。神を畏れ敬い、「キリストの愛（私たちの存在を喜ばれる愛、いつくしみ）にとどまり続けましょう。※今年度の目標。礼拝の式次第の下に記しました。ご覧ください。

3. 私たちが霊の目でしっかりと見つめるべきことは、「ですから見なさい。神のいつくしみ（原語：親切、慈悲、好意。I コリント13：4の「愛は「親切です」と同じ原語）と厳しさ（神の厳しさは、人間の愛のない厳しさと全く違う。怒るのに遅い神に立ち返らない者への正しいさばき。）を。倒れた者の上にあるのは厳しさ（神の正しいさばき）ですが、あなたの上にあるのは神のいつくしみです。ただし、あなたがたがそのいつくしみにとどまっていればであって、そうでなければ、あなたがたも切り取られます」：22。今年度の目標に通じます。「わたしの愛（いつくしみ）にとどまりなさい」ヨハネ15：9。

他方、今は折られているイスラエル人（国としてのイスラエルではなく、世界中に散在しているイスラエル人）も「もし不信仰の中に居続けなければ、（主に）接ぎ木されます。神は、彼らを再び接ぎ木する（救う）ことがおできになるのです。あなた（異邦人）が、本来野生であるオリーブの木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されたオリーブに接ぎ木された（信仰により救われ主に接ぎ木された）のであれば、本来栽培された枝であった彼らは、もっとたやすく自分の元のオリーブに接ぎ木される（主を信じ主に接ぎ木される）はずです。」：22—24。この希望をパウロは持ち続けます。私たちも人々の救いを希望をもって祈り続けましょう。

Ⅲ まとめ、私たちへの適用

1. 神のいつくしみに拠り頼むかどうか最も大切な事です。神に過去選ばれた国の子孫であるかではなく、イエス様をキリスト、救い主、主（ヤハウエ「わたしはある」という者。救いの契約の主）と信じるかどうか。その信仰によってのみ、私たちは救われ、主につながれるのです。

2. パウロは、ユダヤ人であれ異邦人であれ、「折られること」と「接ぎ木されること」について語っている。異邦人である私たちは、生まれ育った木から切り取られて、新しい木（救い主である主）に接がれる。その時、私たちは、古い自分の生き方（神ではなく自分を第一とする生き方）や価値観（神に価値を置くのではなく、富、地位、政治家、庶民、職種、障がい等で存在価値を決め、差別する価値観）から「切り取られる」必要がある。そして、全く知らなかった尊い聖書の教えや生活、主ご自身に「接ぎ木」されて生きるのです。これは神の一方的ないつくしみの御業です。私たちに不思議に与えられた救いを、イスラエル人がねたみ、主を信じ救われる事は恵みです。やがてイスラエル人もすべての国の一人一人も救われることを祈りつつ歩みましょう。

これが、私たち異邦人キリスト者に与えられた特権、使命です。

3. 神のいつくしみ、福音を信じる信仰を脅かす最大の危険は、高慢です。パウロは、ローマ2章でユダヤ人の高慢を戒めました。今度は、異邦人キリスト者たちが決してイスラエル（ユダヤ）人を見下すことがないように警告します。「神のいつくしみと厳しさ」の前に、すべての信仰者は謙遜に歩むべきだと教えます。「神のいつくしみと厳しさ」の前に、すべてのキリスト者は謙遜に歩むべきです。民族間の優劣はもちろん、年齢の上下、職業の区別、男女の差別、障がいがあるかないか、古くからの教会員と新しく転入した教会員との区別等、私たちが誇れるものは何一つありません。皆が神のいつくしみにとどまり続けるために、罪人のかしらの自分が救われている喜びと畏れをもって、謙遜に信仰生活を送りましょう。「神は高ぶる者に敵対し（厳しくさばかれ）、へりくだった者には恵みを与える（いつくしみ深い方）」ヤコブ3：6。応答の讚美432。自らの罪の故に滅んで当然の私たちが、神の一方的ないつくしみで救われたことを感謝し神を誉め称えつつ、ユダヤ人もすべての国々の人々、家族、知人、友人に、いつくしみと祈りをもって主を伝えたい。今は頑なな人のためには、いつくしみと忍耐をもって祈りましょう！